

2017年(平成29年)3月31日

ジャパンラグビートップリーグに着目して 平成28年度「トップスポーツ調査研究報告書」を発行

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、スポーツ文化・啓発事業における調査研究の平成28年度「トップスポーツ・プロジェクト」の活動結果を報告書にまとめ、このたび発行しました。当財団は平成27年度からトップスポーツの現状と課題に関する社会学的な調査研究に取り組んでいます。報告書は当財団ウェブサイトでも公開します。 <http://www.ymfs.jp/project/culture/survey/>

■報告書タイトル

『「トップスポーツ」の持続可能なシステム構築に向けた探索的調査その1
- ジャパンラグビートップリーグに着目して - 』

■報告書の概要(全3章で構成)

【第1章】 トップスポーツ・プロジェクトの問題意識・研究目的

キーコンセプト「トップスポーツ」の位置づけや「企業スポーツ」の課題、「地域密着型スポーツ」の行方など、本プロジェクトの目的や狙いについて紹介。

【第2章】 ジャパンラグビートップリーグにおけるスタジアム観戦者調査

ラグビーワールドカップ2019日本大会の試合会場地である兵庫県と静岡県で開催された2016-2017シーズンのラグビートップリーグ2試合のスタジアム観戦者調査を報告。併せて「企業スポーツにおけるコース・リレーテッド・マーケティングとトライアルの効果」も紹介。

【第3章】 ラグビーフットボール関係者のインタビュー

ジャパンラグビートップリーグや各地域におけるラグビーフットボールの普及振興に関する目標や課題などについて、関係3競技団体に実施したインタビュー調査結果を紹介。

■トップスポーツ・プロジェクト (※五十音順。平成29年3月31日現在)

リーダー：岡本純也(一橋大学大学院 商学研究科 准教授)

委員：浅見俊雄(東京大学・日本体育大学 名誉教授/当財団 理事)

澤井和彦(明治大学 商学部 准教授)

澁谷茂樹(公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主任研究員)

中村英仁(一橋大学大学院 商学研究科 専任講師)

涌田龍治(京都産業大学 経営学部 准教授)

※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:尾鍋)

www.ymfs.jp

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

〒438-8501 静岡県静岡市新井 2500
TEL: 0538-32-9827 FAX: 0538-32-1112

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan
Tel: +81 538 32 9827 Fax: +81 538 32 1112

【参考資料】 ※報告書の主なトピックス

■第2章「ジャパンラグビートップリーグにおけるスタジアム観戦者調査」より抜粋

- ・調査会場(ノエビアスタジアム神戸およびヤマハスタジアム)をホームスタジアムとするジャパンラグビートップリーグチーム(神戸製鋼コベルコスティーラーズ、ヤマハ発動機ジュビロ)のスタジアム観戦者調査を行い、同じスタジアムをホームスタジアムとするプロサッカーJリーグクラブ(ヴィッセル神戸、ジュビロ磐田)をベンチマークとして一般観戦者のホームクラブファンの特徴について比較分析を行っている。
- ・Jリーグではファン高齢化が課題になっているが、ジャパンラグビートップリーグのファンは更に高齢化が進んでいる。
- ・今回調査した結果では、観戦ビギナー(今シーズンから観戦開始した)が観戦者に占める割合は、ジャパンラグビートップリーグの方がプロサッカーJリーグより多い。
- ・ヤマハ発動機ジュビロファンの観戦動機は「クラブへの愛着」、「競技への愛着」、「地域への愛着」、「選手への愛着」というJリーグクラブでも上位の観戦動機において、Jリーグ平均より高い得点を示していた。
- ・ラグビー観戦ビギナーの「ラグビーワールドカップ2019」への関心を、ジャパンラグビートップリーグ観戦にどのようにつなげるかというのが課題である。

■第3章「ラグビーフットボール関係者のインタビュー」より抜粋

- ・ラグビーワールドカップ2019成功には、さらなる観戦者獲得が必要であるが、特に重要なのが開催都市となる自治体との連携である。(公益財団法人日本ラグビーフットボール協会)
- ・ワールドカップ2019は一過性イベントであり、大事なことはこの大会を足がかりとしてラグビー人口をいかに増やすかである。(兵庫県ラグビーフットボール協会)
- ・地域におけるラグビー普及はボランティアの多大なる貢献に支えられている。(兵庫県協会)
- ・ラグビートップリーグファン獲得や興行価値の向上を担う専門の人材育成や確保が重要。(兵庫県協会)
- ・ラグビーワールドカップ2015の日本代表チーム活躍や五郎丸選手人気で、ラグビースクール入部希望者が例年の約1.5倍に増加したが、そのまま中高生の競技人口増加に繋がったということではなく、効果は限定的であった。(静岡県ラグビーフットボール協会)
- ・静岡県は日本ラグビー協会の「放課後ラグビープログラム モデル事業」の指定を受け、ワールドカップ2019開催都市としての、新しいラグビー活動の場を創設するきっかけ作りに取り組んでいる。(静岡県協会)
- ・ラグビー発展には県内にあるラグビートップリーグチームの普及活動への協力が非常に効果的である。(兵庫県協会、静岡県協会)
- ・少子化が進む中、中体連、高体連の学校対抗の枠にとらわれず、地域でラグビーを育てていく、ラグビーを通じて地域の子どもたちを育てていくということも重要。(静岡県協会)